

茨木市の ごみ処理

茨木市のごみの収集量は、最近5年間を見ますとほぼ横ばいとなっていますが、高い数値で推移しています。

市では、ごみの減量化や資源化、再利用を推進するために、さまざまな取り組みをしています。

そこで、私たちから出るごみがどう処理されているのかを紹介し、私たちにできることを考えたいと思います。

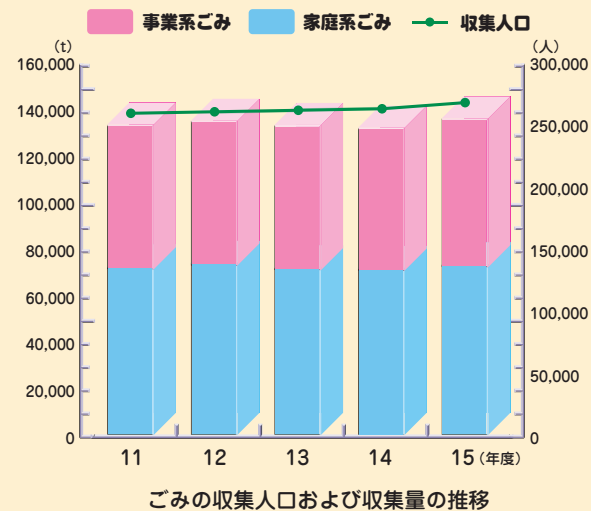


環境衛生センター

ごみの収集

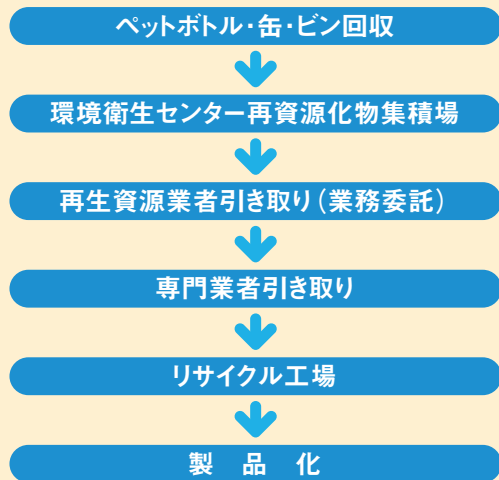
茨木市では、ごみを普通・粗大・資源ごみに分別してステーション収集をしています。普通・粗大ごみは、市のごみ焼却施設へ運ばれ、資源ごみは、委託した業者に引き渡されます。また牛乳パックなどの古紙は、小学校や公民館などの公共施設60カ所に回収ボックスを設置して拠点収集をしています。エアコン、冷蔵庫および冷凍庫、テレビ、洗濯機、パソコンは市では収集しません。(パソコンはメーカーに、他は購入店や買い替え店に引き取ってもらってください)

ごみの収集量は、平成12年度(2000年度)をピークに次の2年間は減少傾向でした。しかし平成15年度(2003年度)には、人口の増加や事業系のごみの排出量により、再び増えています。1日1人当たりの排出量も、大阪府平均、全国平均を上回っています。



ごみの資源化

資源ごみ リサイクルの流れ



資源ごみを除く普通・粗大ごみは、高温溶融炉によって処理されます。溶融炉から排出されたスラグと鉄分は、舗装用土木資材やインターロッキングブロックなどに利用されます。ごみ溶融システムの余熱は回収して施設内の電力に使われ、余剰電力は売電しています。また、埋立処分が必要となるのは少量の溶融飛灰のみであり、最終処分の量が少なくなり、ごみ処理のコストを低減できます。

ペットボトル、ビン、缶などの資源ごみは、再利用されたり、再生利用されて新しい製品に生まれ変わります。ペットボトルは繊維などに、ビンはガラス容器や建築・土木材料に、缶は飲料缶や電気製品、建築材料などに再生されます。拠点収集された古紙(牛乳パック、新聞紙、雑誌など)は、トイレトーパーや新聞紙、菓子の箱などになります。

私たちにできること

- 使い捨て大量消費の生活を見直そう。
- ごみになるものは買わないようにしましょう。
- ごみにしない工夫をしよう。
- 冷蔵庫の中を点検しよう。
- 生ごみは水切りしよう。
- 生ごみは堆肥に変えよう。

- ごみは透明(または半透明)袋で出そう。
- リサイクルを心掛けよう。
- グリーン商品を購入しよう。

ごみの減量やリサイクルは、私たちが住む街の環境を良くし、ごみ処理の経費低減になります。私たちの行動の一つが、環境の向上につながるのです。

担当：金原 宮原

野原や街で見かける チョウ

春風とともにチョウの季節が到来します。日頃よく見かけるチョウも、その生態については知らないことが多くあります。そこで身近にいるチョウについて聞いてみることにしました。その中のいくつかを紹介します。

シロチョウ科



スジグロシロチョウ

羽に黒い筋の模様がある白いチョウで、イヌガラシなどを食草にして、サナギで越冬する。

アゲハチョウ科



クロアゲハ

カラアゲハより黒く、食草はミカン、ユズ、カラタチなどで、サナギで越冬する。

シジミチョウ科



ベニシジミ

赤色のチョウで、スイバ、ギシギシなどを食草にしている。幼虫で越冬する。



キチョウ

鮮やかな黄色いチョウで、食草はネムノキ、ニセアカシア、ハギなど。成虫はそのまま越冬する。



アオスジアゲハ

黒い羽のほぼ中央に、一列に並んだ青い紋様がある。クスノキ、タブノキ、ニッケイなどを食草とし、サナギで越冬する。



ヤマトシジミ

雄は青色または青白色で、雌は褐色。カタバミなどを食草にし、幼虫で越冬する。

※チョウの大きさは原寸ではありません。

<農林課 水垣さんに聞きました>

■チョウの一生

チョウは卵、幼虫、サナギ、成虫の4段階を経て完全変態をします。幼虫には鋭い歯があり、多くは葉や農作物を食べるので、害虫になることもあります。サナギは外敵から身を守るために、葉や枝の色に同化します。成虫は1~2週間生きるものや1年近く生きるものもいます。その間に産卵します。

■チョウとガの違い

分類学的にはどちらも鱗翅目です。その大部分がガで、チョウはその中の一部です。その違いについてはさまざまなことが言われますが、どれも例外があります。結局、チョウとガは同じ仲間ではっきりと区別することはできません。

■チョウの習性

チョウの中には種類によって、同じコースを飛ぶ習性(チョウ道)を持つものやなわばりを持つもの

のがあります。一カ所にしばらくいると、同じ個体のチョウに出会えます。

■国チョウのオオムラサキについて

大型の美しいタテハチョウで、雑木林などにすんでいます。幼虫はエノキの葉を食べ、その根元で越冬します。雄はなわばりを持ち、侵入した鳥を追い回すこともあります。茨木市の山の中でも見かけられます。

■チョウのすみ環境

チョウなどの昆虫は、環境の変化に非常に敏感です。チョウを守ることはチョウのすみ環境を守ることであり、自然を守ることです。自然破壊が進み、チョウがいなくなると生態系が乱れ、その中で生活する人間にも影響します。ただ観賞するだけでなく、チョウをとりまく環境について考えてみてはいかがでしょうか。

担当：阿曾 西村
絵：金原